



傲慢と善良

進路指導部長の木村です。今年もまた、進路指導室から生徒の皆さんの進路実現の支援をするこ
とになりました。この進路指導部だよりを通じて、進路に関する情報や、ちょっとでも役に立ちそう
なことを発信していきます。

今回、最初は保護者向けの内容になりますが、なかなか考えさせられるものなので、読んでみて
ください。本当は入学式に保護者にお話する予定だったものなのですが…（時間無くて話せなかったの）。
“刺さる”という表現が、最近どうやら市民権を得ているようですが（本来は確か、悲痛な感情を表す表現の
はず…）、まさにここ数ヶ月で一番“刺さった”文章です。

辻村深月という作家はご存じですか？有名なところでは、アニメ映画化された“かがみの孤城”と
いう作品があります。

最近の作品“傲慢と善良”（恋愛小説？なのですか）の中に、こんな一節があります。

「現代の日本は、目にみえる身分差別はもうないですけど、一人一人が自分の価値観に重きを置きすぎて
いて、皆さん傲慢です。その一方で、善良に生きている人ほど、親の言いつけを守り、誰かに決めてもらう
ことが多すぎて、自分がないということになってしまう。傲慢さと善良さが、矛盾なく同じ人の中に存在し
てしまう、不思議な時代なのだと思います」

全文を紹介できないので、文中の言葉を使って簡単に言うと

“傲慢”とは、自分の価値観に重きを置きすぎること、自己愛、自分は自分なんだ！という主張。

“善良”とは、親や先生のいいつけを守る…いい子ちゃん。何でも誰かに決めてもらう、つまり、自
分が無い状態。

この2つが存在している…つまり、

これが自分だ！って主張する割には、大切なことを自分で決められない

確かに、思い当たる節がいくつもあります。今の子どもたちの中には、そういう生徒が増えてきてい
るような気が…。よく考えてみると変な状態です。

これを生むのは何か？それは“親の支配”だと書いてありました。作中ではこんな表現…強烈です
「苦勞がみえよう、よいよい道を。よかれと思っていたとしても、それは、支配ではないか」

「親の望んできた『いい子』が、必ずしも人生を生きていく上で役に立つわけじゃない」

「自分の子どものことを決めてやらなければ、動いてやらなければ、と思う親たちの思い込みもまた、彼ら
が真面目で善良だから起きるのかもしれない。子どもがいっぱしの社交性や社会性を獲得することをイメ
ージできないのだ」

「自分が世間知らずだから、娘もそうだと思ってしまう。世間知らずの狭い範囲の価値観と道徳で育てた娘
もまた、母親と同じ世間知らずになるのは至極当然のことだ」

親だから心配して当然だし、それが愛情であり、親の使命だと本気で信じている。だから何でも先
回りしてやってあげる。子どもは子どもで、そんな親の気持ちもわかるから、“親を悲しませたくな
い”って言うとおりにしてしまう。これは“支配”である、と。

子を持つ親としては、まさに胸に突き刺さりました。私も当然、自分の子どもがかわいいのですか
ら、色々手をかけてあげたい気持ちは大いにあります。でも、そのやり過ぎは“支配”…。結局、

自分で何も決められず、世間知らずの無知を育てる。

それは子どもにとって最大の不幸です。

心配で心配で仕方ないけれど、ある程度子どもを信じて見守る…親として、そして教育者として、そ
ういう姿勢が求められているような気がしてなりません。

さて、これを子どもからの目線で考えてみるとどうでしょう？

「親がうるさい」「何でもかんでも干渉してくる」

「何かあったら困るから、進学先は道内じゃなきゃダメって言われる」

よくこういう声を聞きます。気持ちはわかりますが、そんな時、私は決まってこう答えます。

朝、ちゃんと自分で起きてきているかい？

いつも自分の部屋はきれいになっているかい？

何でも自分で考えて、自分で調べて、自分で決めているかい？

親が口うるさく言うのは、自分ができていないからじゃないかい？

子ども扱いされるのが嫌だったら、自分がしっかりしているところを親に見せるしかないですよ。
そもそも、もう高校生ですし、自分の人生ですからね。自分で決めて、その決断に自分で責任持つこ
とが大切なのだと思います。

進路指導室について

生徒玄関から階段を上ってすぐ、職員室のずっと手前に進路指導室があります。ここは、進路指導
の先生が常駐して、進路に関する相談などを聞いたり、アドバイスしたりする部屋です。各大学入試
の過去問（通称『赤本』）も並べられています。何かあったら気軽にドアをノックしてください。

YOSORO

今年度第1号なので…進路だよりのタイトル『YOSORO（ヨーソロー）』の説明を。

海賊や船乗りが出てくる漫画や映画などで、よく出てきます（みんな好き？な漫画『ワンピース』や映画『パイレー
ツオブカリビアン』にも）。Wikipediaによると、もともとは、航海用語で、船を直進させることを意味す
る操舵号令で、今向いている方向でよしというときに発します。「面舵（おもかじ）いっぱい！ヨー
ソロー！」って感じです。簡単に言うと、

『そのままっすぐ進め！』という意味です。何となく意図が伝わりますか？